

## 第3章 流域の社会状況

### 3-1 土地利用

常願寺川流域は、上流域に標高 3,000m級の立山連峰があり、下流域では扇状地を形成しているため、流域面積からみると山地面積の割合が約 90%とそのほとんどを占めており、平地面積はごくわずかである。

また、常願寺川流域内における土地利用の状況をみると、山地が多いことから、都市・農業地域に対して、森林・自然公園地域の割合が多く、自然に恵まれた流域であるといえる。

表 3-1 常願寺川流域地形別面積（平成 7 年度末）

	流域全体	山地	平地
面積 (m <sup>2</sup> )	378.6	341.8	36.8
構成比 (%)	100.0	90.3	9.7

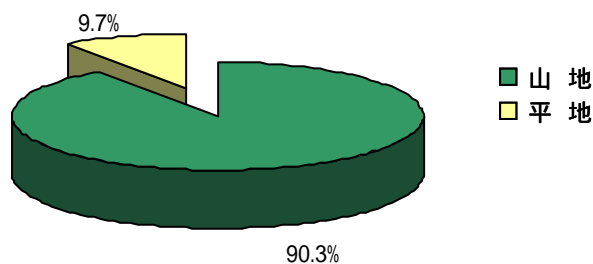


図 3-1 常願寺川流域地形別面積（平成 7 年度末）

表 3-2 常願寺川流域土地利用別面積（平成 7 年度末）

	流域全体	都市地域	農業地域	森林地域	自然公園地域	自然保全地域
面積 (m <sup>2</sup> )	556.1	17.1	26.1	334.9	178.0	0.0
構成比 (%)	100.0	3.1	4.7	60.2	32.0	0.0

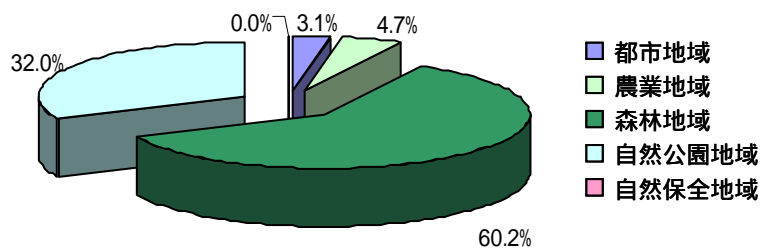


図 3-2 常願寺川流域土地利用別面積（平成 7 年度末）

### 3 - 2 人 口

常願寺川流域の関係市町村において、平成 12 年国勢調査によると人口は約 37 万人であり、近年は漸増傾向にある。富山市、(旧)大山町、立山町は横ばい傾向にあり、近年舟橋村が富山市のベッドタウン化により人口を大きく伸ばしている。

世帯数は、平成 12 年時点で約 13 万世帯であり、経年的に増加を続けている。

H17.4.1 市町村合併前の富山市

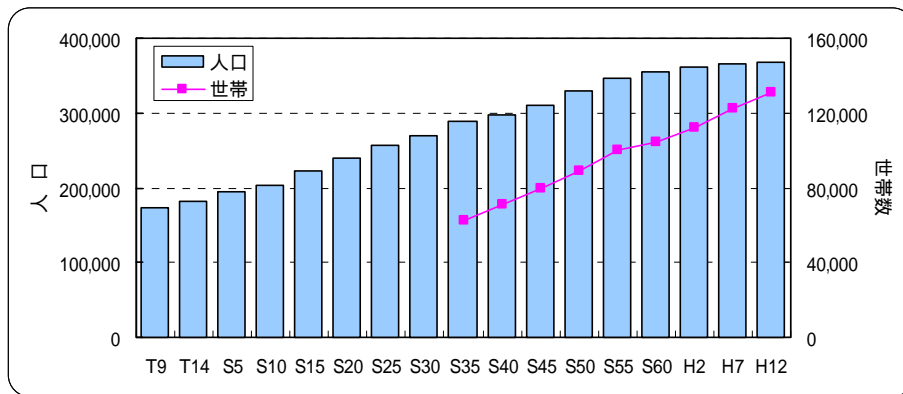


図 3-3 関係市町村人口・世帯数の推移

表 3-3 関係市町村の人口の推移

	T9	T14	S5	S10	S15	S20	S25	S30	S35
富山市	140,934	149,132	160,726	169,161	187,483	194,168	211,827	225,792	241,448
大山町	10,058	9,544	10,163	10,610	12,660	14,331	13,693	13,173	14,915
立山町	22,060	21,444	21,921	22,180	22,018	29,865	29,277	29,596	31,285
舟橋村	1,163	1,130	1,110	1,103	1,134	1,497	1,428	1,387	1,348
計	174,215	181,250	193,920	203,054	223,295	239,861	256,225	269,948	288,996

	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12
富山市	255,932	269,276	290,143	305,055	314,111	321,254	325,375	325,700
大山町	12,286	11,804	11,469	12,656	11,290	11,064	11,147	11,652
立山町	27,886	27,473	27,226	27,870	27,974	27,237	27,444	27,994
舟橋村	1,344	1,357	1,386	1,360	1,419	1,371	1,658	2,153
計	297,448	309,910	330,224	346,941	354,794	360,926	365,624	367,499

出典：富山県統計書

表のデータは H17.4.1 市町村合併前のもの

表 3-4 関係市町村の世帯数の推移

	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12
富山市	53,468	61,961	70,549	79,691	88,584	94,028	101,817	110,771	118,070
大山町	2,667	2,635	2,667	2,743	4,194	3,014	3,041	3,268	3,633
立山町	5,864	5,861	6,133	6,446	7,124	7,362	7,293	7,761	8,427
舟橋村	246	258	283	310	315	334	346	450	627
計	62,245	70,715	79,632	89,190	100,217	104,738	112,497	122,250	130,757

出典：富山県統計書

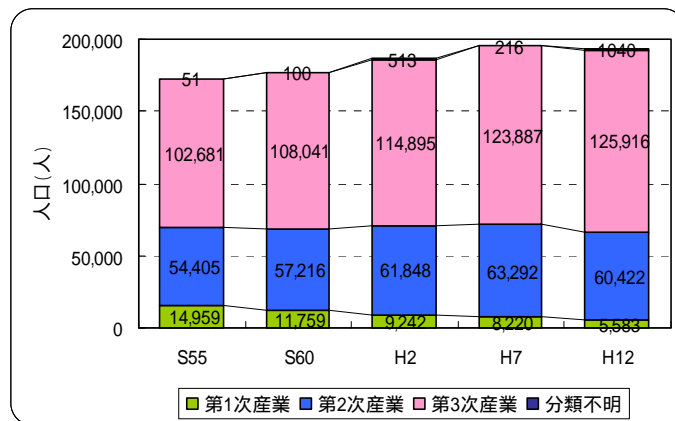
表のデータは H17.4.1 市町村合併前のもの

### 3 - 3 産 業

富山県の産業のはじまりは、富山藩の産業振興策として発展した売薬業にある。

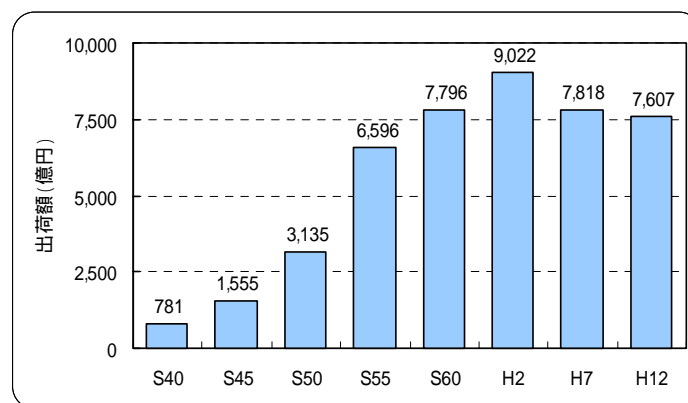
現在、常願寺川上流域において、27ヶ所の発電所で総最大出力約81万kWの電力供給が行われ、富山県の全世帯約37万世帯の約60%に相当する発電を行っている。また、豊かな水と安価な電力により工業立地が進み、現在では日本海側屈指の工業集積を誇っている。これらの工場では、大量の水を使用し、工業用水としての水利用も多い。中・下流域には大きな工業団地がつくられ、今では農業とともに、流域の町をささえる重要な産業になっている。

また、常願寺川の下流域は扇状地が形成され、水田が広がり、米づくりが盛んで、富山県を代表する米どころとなっている。横江頭首工（堰堤）で取水された農業用水は、左岸側の常西用水路・右岸側の常東用水路に配水され、扇状地をアミの目のようにはりめぐらされている各用水路に流れ、約7,900haもの田畑を潤している。



出典：富山県勢要覧

図 3-4 関係市町村の産業就労人口の推移



出典：富山県勢要覧

図 3-5 関係市町村の製造品出荷額の推移

上図は H17.4.1 合併前の関係市町村（富山市・立山町・大山町・舟橋村）の合計

### 3 - 4 交通

常願寺川は県都富山市を流域に抱え、富山県の交通の大動脈である一般国道8号及び北陸自動車道（立山インターチェンジ）の他、JR北陸本線、富山地方鉄道等の基幹交通施設が整備されている。常願寺川沿いには、上流域と富山市街等を結ぶ主要地方道や富山地方鉄道が整備されている。また、上流域では、立山町千寿ヶ原から立山黒部アルペンルートによって長野県大町市へと繋がっている。東京を起点として長野、上越、富山、金沢等の主要都市を経由する北陸新幹線が整備中であるなど、常願寺川流域は交通の要衝となっている。

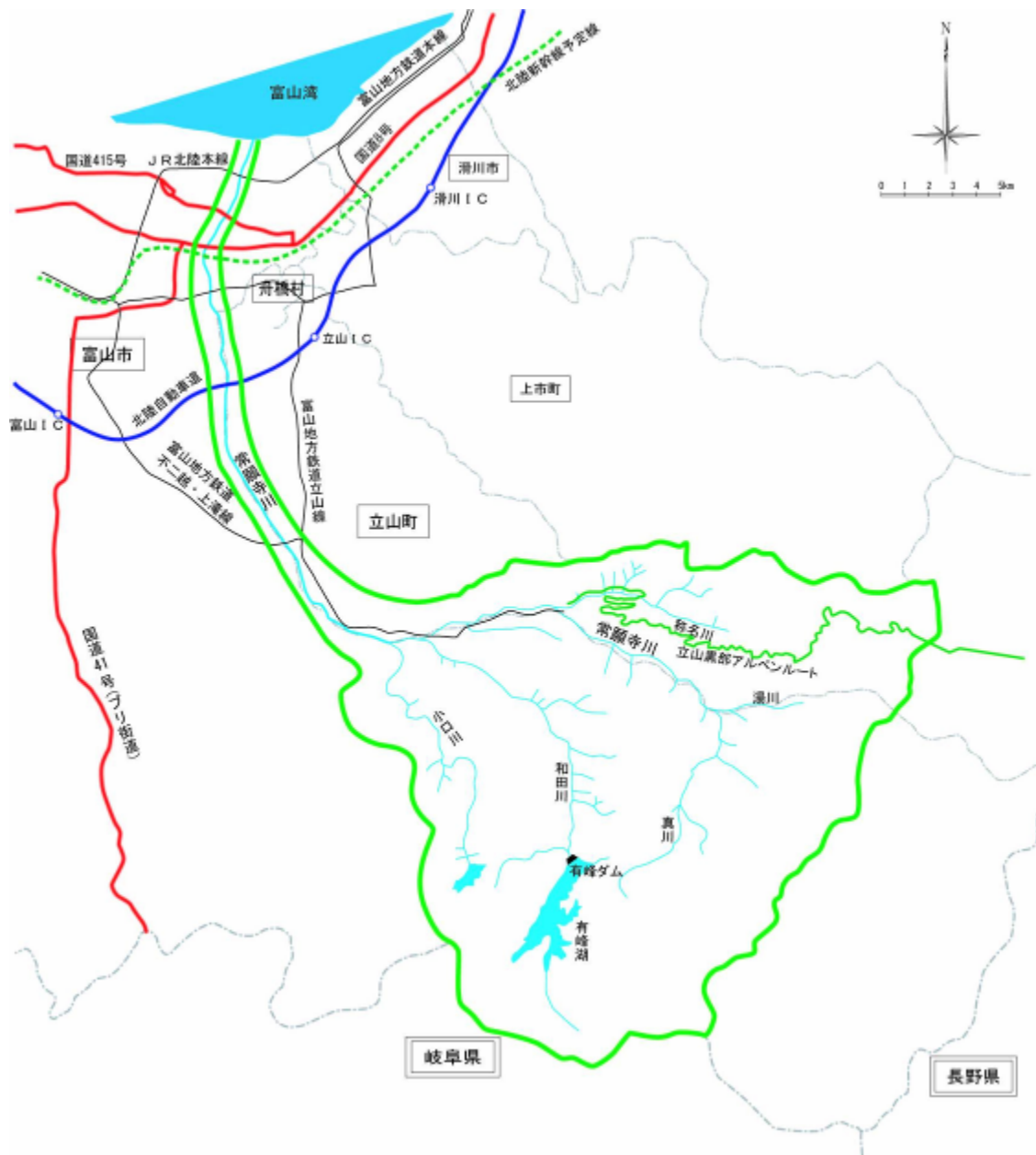


図 3-6 常願寺川流域の交通網